



上：木工所作業風景 右：完成した木枠



## 工程1 本体木枠の製作

本体皮革の手配（革の鞣し業者へ）と同時に、本体木枠の製作が始まります。使用する木材は変形をなくすためによく乾燥させたものを使用します。箱の外側ふちは皮革の厚みくらい鋤かれます。これは上に重なる革の端が反り返らないようにするためです。目的に合わせて軽い桐枠、頑丈な合板が使い分けされます。



上：革の裁断作業風景  
右：出来上がったばかりの白ヌメ革

## 工程2 皮革の完成と裁断

本体皮革に白ヌメ革を使用する場合、注文を受けてから、皮から革へ加工します。白ヌメ革は完成直後から日焼けが始まるので、作り置きが出来ないためです。

到着した革は、まずパーツごとに裁断されていきます。裁断は油圧式の大きな裁断機と抜き型を使い、一つずつ革の表情を見ながら職人が抜いていきます。別注でパーツの形が変わる場合は、抜き型もパーツごとに作られます。

